

## 2024 年度卒業設計優秀作品

### 卒業設計優秀作品審査委員会

主査 小倉 寛征

委員 遠藤謙一良

委員 菅原 秀見

委員 小西 彦仁

委員 村國 健

委員 照井 康穂

2024 年度卒業設計優秀作品 大学の部

金賞

壁を跨ぐ～簡平住宅のコンバージョンによる町民の居場所づくり～  
室蘭工業大学理工学部創造工学科建築土木工学コース 岸本 涼花

銀賞

感覚を呼び覚ます ～新たな共生空間の提案～  
北海学園大学工学部建築学科 有村 萌花

銀賞

雨と雪の日には、  
北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース 秋元 優花

2024 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

大空の未来～農と人の繋がり～  
北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科 大瀬戸 杏

銀賞

帯広で出会う。ばん馬に出会う。  
北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科 吾妻 優月

銅賞

もりのぼっけー地域に開く動物愛護施設の提案ー  
釧路工業高等専門学校創造工学科 佐藤 澄果

2024 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

ASOBO  
北海道旭川工業高等学校建築科 安廣 駿太郎

銀賞

北彩都 Fluss  
北海道旭川工業高等学校建築科 久保田 悠友

銅賞

レトロ本箱  
北海道函館工業高等学校建築科 川村 藍里

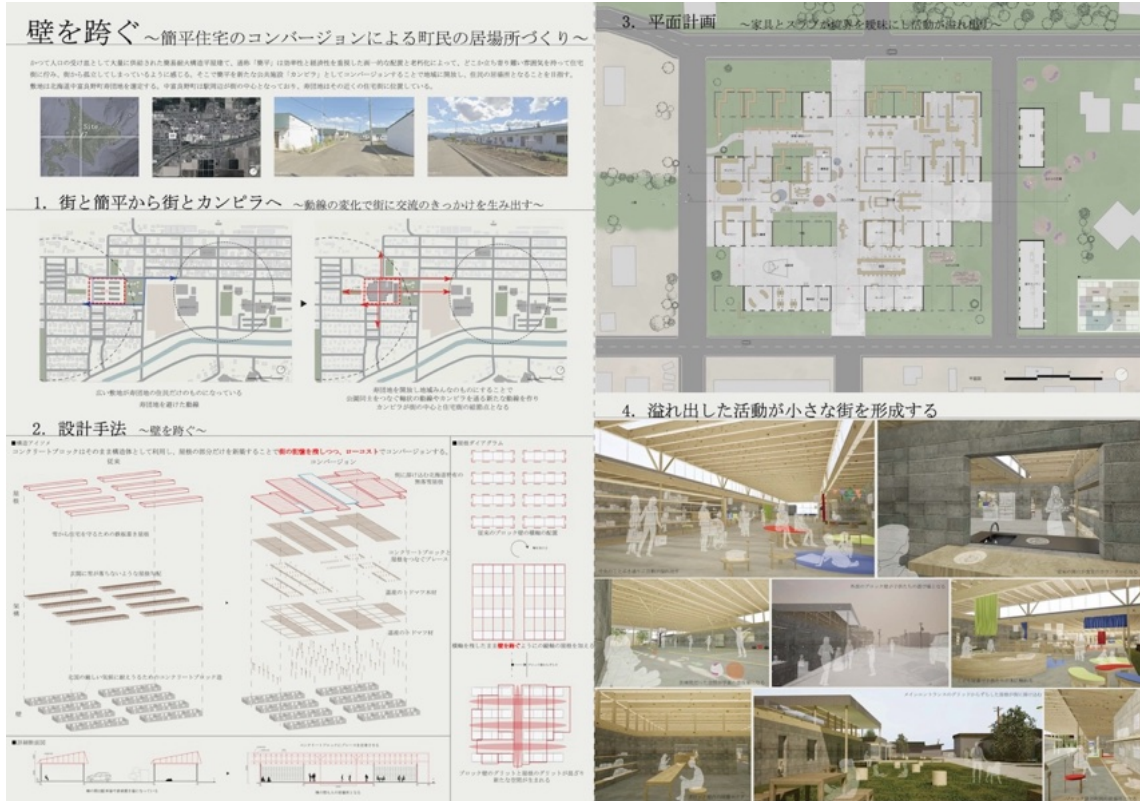
銅賞

HAKODATE M<sup>2</sup>  
北海道函館工業高等学校建築科 松山 葵

2024 年度卒業設計優秀作品 大学の部 金賞

壁を跨ぐ～簡平住宅のコンバージョンによる町民の居場所づくり～

室蘭工業大学理工学部創造工学科建築土木工学コース 岸本 涼花



かつて北海道の市町村で人口増加の受け皿として供給された公営の連棟住宅、「簡易耐火構造平家建て住宅」はその役割を終え過疎化する街に廃屋となり残されている。通称「簡平」は壁の構造が軽量コンクリートブロック造で屋根は木造となっている。そのつくりから木造は耐用年数が過ぎ使用できないが、壁はまだ十分使用できることから屋根を除き壁のみを残し、そこに町民が集う新しい機能と場所を企画したものである。一定の間隔で配列された「簡平」は近寄りにくい雰囲気だったが、それを解消すべく手法として、壁の軸と90度回転させた新しい屋根を設けさらに木軸をずらし高さもエリアで変化させることにより躍動感が出ている。あえて簡平のブロック造の壁と木造の屋根を切り離し軸を交差させることにより今までにない新しい感覚の空間が生まれている。これはまさに気付きの瞬間であり、しかも負の資源の有効利用となり財政難の自治体にも嬉しい方法の提示である。リアリティーある提案はあえて新鮮で思考そして計画ともに申し分なく金賞に相応しい。(小西彦仁)

2024 年度卒業設計優秀作品 大学の部 銀賞  
感覚を呼び覚ます ～新たな共生空間の提案～  
北海学園大学工学部建築学科 有村 萌花

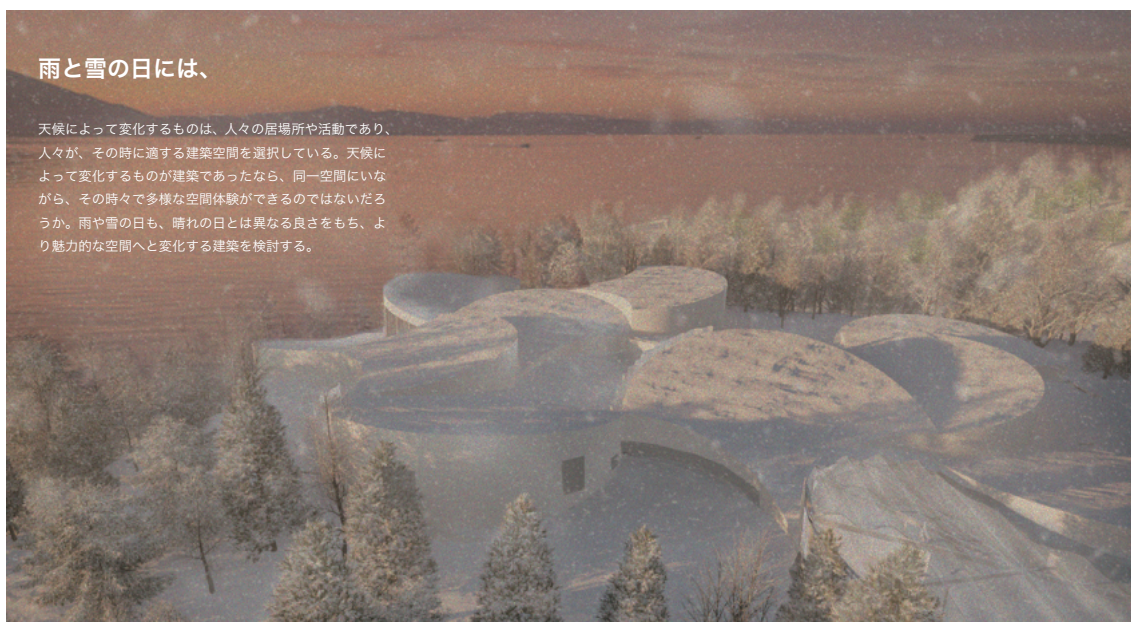


この作品からは、現代日本における超高齢化社会以前の暮らしと空間のあり方の関係进行分析した上で、これまでの暮らしと空間のあり方の関係にとらわれず、計画地周辺の環境を含め屋内外の空間を一体として考えられたことが見てとれる。とりわけ屋外空間のボリュームとその構成が、空間の形態として考えられ、その空間形態が屋内空間構成の主要な要素ともなっている点は秀逸である。スケールや光と暮らしの関係など細部までよく検討されており、コンセプトが空間としての的確に解かれた力作である。(照井康穂)

2024 年度卒業設計優秀作品 大学の部 銀賞

雨と雪の日には、

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース 秋元 優花



北海道が属する亜寒帯湿潤気候は、雨に恵まれ冬には雪に変わり潤いのある環境である。本プロジェクトは、ホテル・展望台・美術館の機能を持つ複合施設を、北海道支笏湖畔に計画し、周囲湖面の風景の中、季節移ろう北海道の気候特性である“雨から雪の光景”を積極的に建築空間に取り入れ、また雨の流れや雪がつくる自然と融合した建築の形態・空間の可能性を試みている。葉形のユニークなプランユニットの屋根形状は、様々な高さから傾斜し、異形のプランユニットのレベル差をスロープ化する事で、移動時に屋根のズレや床との隙間に生じる開口部から大地の空を切り取る多様なシークエンスを創造。季節の中、雨と雪の恵みが自然と空間の融合を深める。北海道の環境を考慮した新しい空間創出の試みは、銀賞に値する。(遠藤謙一良)

2024 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部 金賞

大空の未来～農と人の繋がり～

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科 大瀬戸 杏



十勝の大地と風、明るい未来を感じるような建築である。農業の後継者不足と、計画地の少子高齢化による空洞化という課題を、「農」が多世代をつなぐ体験・交流施設により解決するだけでなく、より魅力的な産業、地域に発展させたいとの作者の思いが伝わってきた。

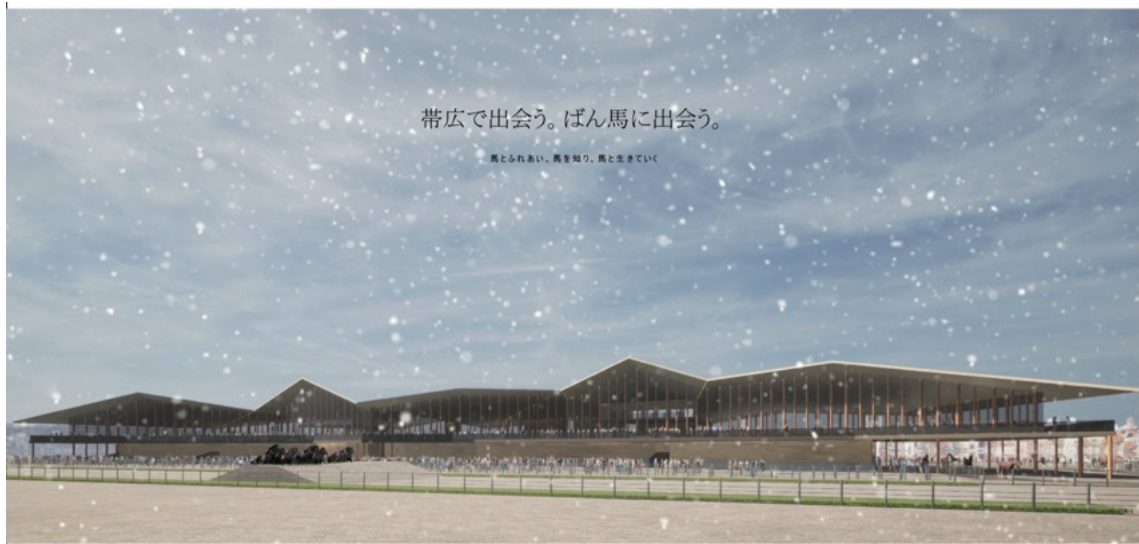
計画地の丁寧な分析に基づき、体農場を緩やかに囲むコの字の建築を、周辺環境と自然環境を考慮して都市軸から振られた建物配置など、優れた計画的視点が読み取れた。また、防風林のように連なる壁、風を受け流すようにカタナリー曲線を描く木造屋根に高い造形力が、床レベルや開口部の操作にスケール感を理解した建築的操作が読み取れる。さらに、長期的な活動プログラムまで提案するなど誠実な設計姿勢が感じられた。CG や模型を活用して分かりやすくまとめ上げたプレゼンテーションも評価に値する。

以上の点より、金賞がふさわしいと判断した。(小倉寛征)

2024 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部 銀賞

帯広で出会う。ばん馬に出会う。

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科 吾妻 優月



大雪山系を背景とした力強い屋根形状が印象的なばんえい競馬場の施設である。直線のコースに対し、見る角度を操作するという単純な手法が空間の豊かさを生み出しており、見せ場となる障害の山を越えるシーンをよりドラマチックに演出できるのではないかと想像させる。この平面の操作と屋根形状が見事に調和していること、一見武骨に見える丸太の柱も十勝の大地の力強さを表現しており、十勝らしい建築を生み出している。この空間のダイナミックさもさることながら、パドックの空間を建築に取り込みばん馬を身近に感じさせる設えもこの建築に魅力を与えている。造形勝負に見えて細かい配慮が行き届いている力量が銀賞としての評価に値する作品である。(菅原秀見)

2024 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部 銅賞

もりのぼっけー地域に開く動物愛護施設の提案ー

釧路工業高等専門学校創造工学科 佐藤 澄果



卒業設計では、社会問題や、対象地域の都市課題などを出発点とすることが多いが、時にその政治的・社会的な課題解決におぼれてしまう難しさがある。当作品は、釧路市柳町公園を敷地とした動物愛護施設の提案である。例に漏れず、道東地区の問題、地域のこどもたちへの動物愛護精神の啓蒙と行った難しい問題を扱っているものの、とても地に足がついたリアリティのある提案に着地している点が好印象であり評価を得た。例えば、隣接敷地にある動物病院と連携し、当施設では扱い切れない高度治療を頼る提案や、犬や猫のストレスに配慮し、犬猫居室の開口部のデザインを動物の特性に合わせて工夫した提案がみられた。マクロ、ミクロの気配りがありとても良い。施設愛称やロゴデザイン、プレゼンテーションの明快さを含め、設計者の動物や都市への愛情深い眼差しが生んだ秀作である。(村國 健)



2024 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部 金賞

ASOBO

北海道旭川工業高等学校建築科 安廣 駿太郎

# ASOBO



## <設計趣旨>

旭川市は、子ども達が雨でも出来る所が、あまりなく、街に子どもの姿が少ないなど街歩きの投票をしていて感じました。また、以前からこの場所は駅から距離があるため休日でも歩く人の姿があまり見られないと感じていました。そのため、雨の日や休みの日にASOBOに行こうと誰もが思うような施設をつくりたいと思いました。また、子ども達のためだけではなく大人たちの健康のために気軽にASOBOに行こうと思えるようなアスレチック施設をつくり買物公園に沢山の人が集まる理由になるような建物をつくりたいと思い設計しました。

## <建設予定地> 6条通りスガイビル跡地

私がこの土地を選んだ理由は駅から少し離れているため人通りが少なく活気を持たせる為にこの土地を選びました。また、この土地はスガイビルというアミューズメント施設が建っていたためこの土地は娯楽施設を建てるのに必要な大きい土地なためASOBOを建てるのに適していると思いこの土地を選びました。

## <特徴・概要>

- ・ 1階 キッズエリア、クライミングエリア、ロープウォークエリア
  - ・ 2階 トランポリンエリア、エアランエリア
  - ・ 3階 スポーツエリア ・ 4階 チェイスタグエリア、パルクールエリア
- フィールドアスレチックエリア
- ・ 子供から大人まで全力で楽しむことが出来る、アスレチック施設

旭川市6条7丁目  
(スガイビル跡地)



旭川  
駅  
方  
面



ロータリー  
方面

旭川市買物公園にて、子供を中心に一般の人々も通年集まり楽しむ事のできるアスレチック施設の計画。従来あった商業施設跡地に、新たに人々が集まる場所の創出を意図し、4層に分けてゾーニングされ、グリッドで平面化。アスレチックの内容に対応し、階高を高く設定し、立面は独自の大きなスケールで力強いグリッドが建ち上がる。風景は、アスレチックの様々な様相が視覚化され、屋上に設置された屋根の無い開放的な空間が加わる事で、周辺環境の中、新しい街のシンボルが創出されている。街の未来を考え、独自の創造や風景の創出は、金賞に値する。(遠藤謙一良)

2024 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部 銀賞

北彩都 Fluss

北海道旭川工業高等学校建築科 久保田 悠友

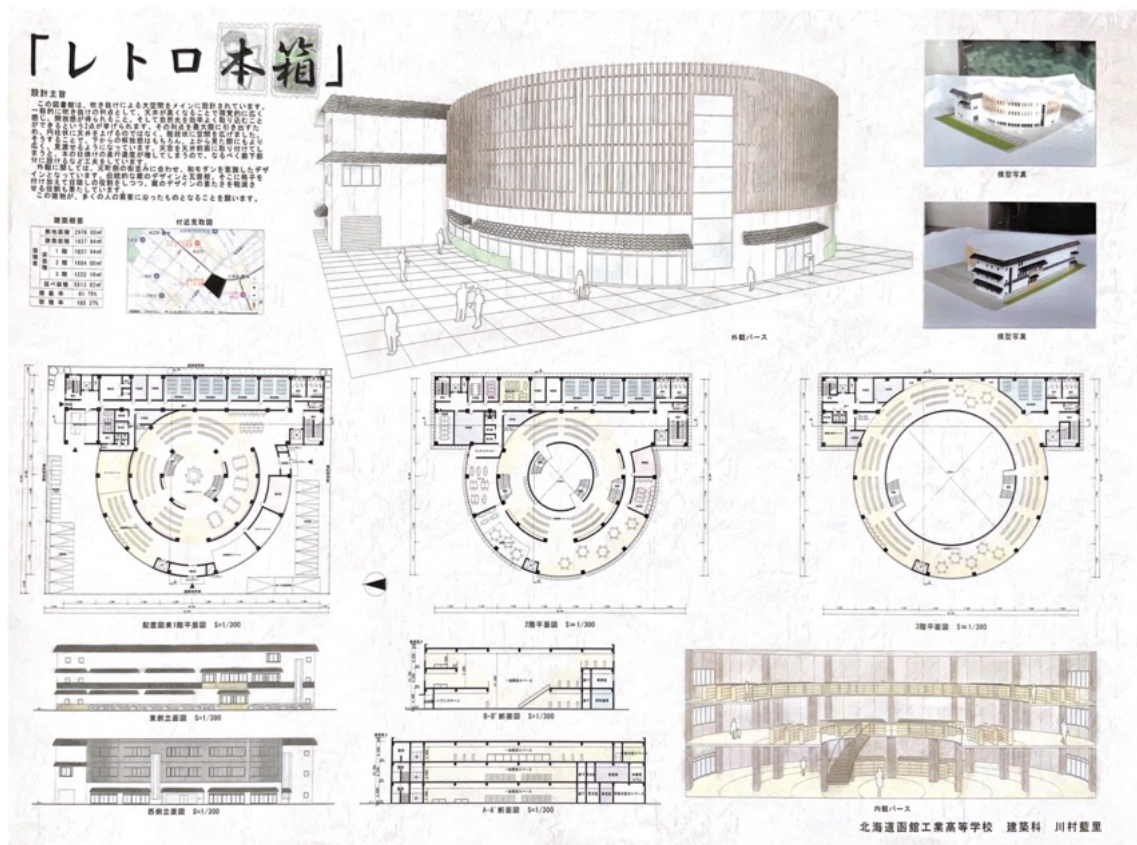


北彩都地区の忠別川沿いに計画された商業施設である。設計主旨に「町から自然になだらかに移行する建物」とあるがその意図通りに空間が構成されている。直線で構成された昔の街並みをイメージしたレンガの壁面から曲面のガラス面への移行に加え、程よいスケール感を持つカフェスペースなど、空間の崩し方により自然への移行が巧みに表現されている。町～川の構図だけではなく、外部から直接屋上庭園へ導く階段や街路的空間から内部空間の見せ方など空間の内外の連続性へのこだわりが感じられる。やりたいことが多くすべてを建築に取り込むことができていない面もあるが、これだけの要素をまとめ上げた力量は銀賞に値すると評価した。(菅原秀見)

2024 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部 銅賞

レトロ本箱

北海道函館工業高等学校建築科 川村 藍里

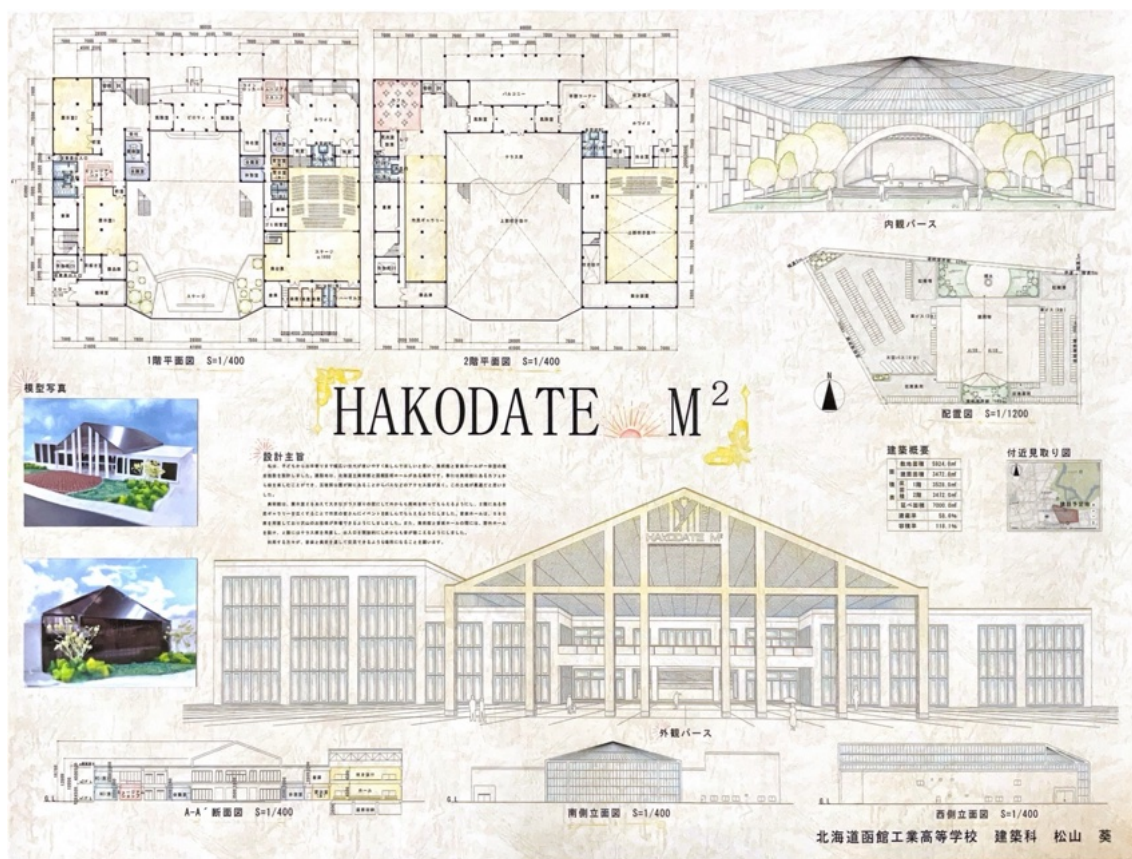


函館市の元町地区に計画された、大きな吹抜け空間を取り囲む一体感のある図書館の計画である。2階、3階と上階に行くにつれて、吹抜サイズが大きくなる広がりのある空間構成を採用している。そのデザインには、利用者が下から見上げた際の開放感と、自然光が効率的に上部から拡散される効果の2つのメリットがあると理解し、その両方を平面図と断面パースによってしっかり表現している力量を評価したい。また、外観においては、元町地区に残る歴史的建築物との調和に配慮し、瓦や、木ルーバーを中心にデザインをまとめており、外観パースには瓦一枚一枚のうねりまでも精緻に表現されている。図書館機能への理解、内部の空間構成、街並みや歴史への配慮など総合的な設計力を評価し、銅賞と評する。(村國健)

2024 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部 銅賞

HAKODATE M<sup>2</sup>

北海道函館工業高等学校建築科 松山 葵



函館の歴史的建造物をメタファーとしてとらえることもできる、外観パースとして描かれている正面ファサードのプロポーションが美しい。平面プランもオーソドックスではあるが細部までよく考えられ、ボリュームを抑えたエントランスの先に拓かれる野外ホールは、この計画地が五稜郭に隣接していることを顕著化させている。「子どもからお年寄りまで幅広い世代が使いやすく楽しんでほしい」という思いを実現する手法として、プログラムだけでなく、自然光、寸法、プロポーション、形態など空間そのものを構成する要素を積極的に検討されるとより魅力的な設計になるうかと思うところで、今後の成長が楽しみである。(照井康穂)